

自然閉鎖を認めた特発性黄斑円孔の特徴および経過の検討**1、研究の目的と意義**

自然閉鎖を認める黄斑円孔は症例数が少ないため、特徴が報告されている文献が少ないです。今回、その特徴と経過を調べ、特徴を明らかにすることを目的とします。意義としては、自然閉鎖が期待できる症例を予測することが可能になり、適切な期間で手術時期を検討したり、今後の視力予後を推測することができるようになることを期待します。

2、対象となる患者さん

2009年8月1日～2021年7月31日の間に特発性全層黄斑円孔の自然閉鎖を認めた、年齢が50歳以上の方を対象とします。

3、研究の方法

2009年8月～2021年7月に当院で特発性全層黄斑円孔の自然閉鎖が確認した患者さんの、初診時の年齢、性別、黄斑円孔の大きさ、矯正視力、光干渉断層計(Optical Coherence Tomography:OCT)所見や、閉鎖までに要した期間や、閉鎖後の矯正視力などについて、診療録(カルテ)を後ろ向きに振り返って調査します。

4、研究に用いる情報

本研究は電子カルテより上記の情報の提供を受けて実施する研究です。

情報について詳しい内容をお知りになりたい方は下記の「お問い合わせ先」までご連絡ください。

5、研究期間

研究機関長の許可日～2022年12月31日

6、外部への試料・情報の提供

該当なし

7、研究実施体制

この研究は長崎大学病院のみで実施する研究です。

《研究責任者》

長崎大学病院 眼科 研究責任者名 北岡 隆

電話：095(819)7345

8. お問い合わせ先

長崎大学病院 眼科 前川 有紀

〒852-8501 長崎市坂本1丁目7番1号

電話：095（819）7345 FAX 095（819）7347

【ご意見、苦情に関する相談窓口】（臨床研究・診療内容に関するものは除く）

苦情相談窓口：医療安全課 095（819）7616

受付時間：月～金 9：00～17：00（祝・祭日を除く）